様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　３ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２５２２

研究課題名（和文）ヨーロッパ中世における博物学的知識の伝承ー中東及び古代・近世との関わり

研究課題名（英文）The Dissemination of Knowledge: Encyclopedias in the Middle Ages

研究代表者
大沼　由布（Onuma, Yu）

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：１０５４６６６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中世イングランドを中心に、文学としての博物誌・百科事典に注目し、古代から近世に至るヨーロッパという時間軸に沿った記述の発展や、中世アラブ・ペルシアの類例との関連という同時代の地域的な記述の影響関係にも目を向けた。その結果、博物学という科学的側面も併せ持つ分野において、中世ヨーロッパ世界が情報伝達に重要な役割を果たしたことを、実例をもって示し、近世以前の「総合知」の在り方を掲示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、博物学的な知識の伝承という問題を、具体的な記述レベルで比較し、汎ヨーロッパ的な古代からの知識の伝承という広い視野に立ち、同時に西洋と東洋の影響関係にも目を配り、ヨーロッパ中世を軸にしつつ、その知識伝播と影響関係を、バランス良くカバーしている点に意義がある。それにより、当時の知識のあり方を総合的に浮かびあがらせ、一般的には未だに「暗黒時代」のイメージがついてまわる中世ヨーロッパ世界が、独自の広がりや先進性を持っていたことを示すものとなりうる。

研究成果の概要（英文）：This project investigates the development of encyclopaedias as a literary genre from classical to medieval Europe, with a focus on England. It also explores the connections between medieval European works and their Arabic and Persian counterparts. By covering both the chronological depth and regional breadth of intellectual dissemination in medieval Europe, this research highlights the significance of medieval European encyclopaedias in transmitting information related to natural history to build a pre-modern form of integrated knowledge.

研究分野：中世英文学

キーワード：百科事典　博物誌　比較文学　西洋中世　中世英文学　西洋近世　アラブ・ペルシア文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

博物誌・百科事典は、人間の知のあり方の探求として、常に研究されてきたテーマであり、国内に留まらず、オランダでの博物誌をテーマとした学会の開催、フランスでの百科事典に特化した研究組織の設立等、国際的にも注目されている。また、印刷博物館(東京)で 2007 年に行われた展示等、一般にも還元できる可能性が高い。申請者も、博物学をメインテーマとはしなかったものの、投稿論文や国際学会への参加などでそれらに関わり、関心の高さを感じてきた。更に、これまでの共同研究や単独研究で申請者が取り組んできた、驚異や超自然現象についての荒唐無稽とも言える記述は、それとは対極にあるかのような科学的記述と、近代科学へ発展する前には実は近しいものであり、博物誌・百科事典は特にその傾向が強いと感じた。そこで、博物学を本格的に取り上げれば、科学の黎明期である中近世の総合知のあり方を明示できるとの着想に至った。

継続的に研究対象となり、興味を持たれ続けている博物誌・百科事典であるが、著作単体の分析が多く、それらを、当時の文脈に正しく位置づけ、包括的に理解することはまだ充分行われているとは言えない。例えば、申請者の主たる関心領域であるイングランドの場合、中世後期に刊行された百科事典の情報源は、セビリアのイシドルスの『語源論』（7 世紀）に代表される初期中世の著作、プリニウスの『博物誌』（1 世紀）やアリストテレスの『動物誌』（紀元前 4 世紀）等のギリシア・ローマの著作等、イングランド以外の地域で、英語ではない言語で書かれた書物である。イングランドの博物学的知識はこういった古代・初期中世の、特にラテン語の書物から引き継いだものであり、そこからの影響を抜きにしては、中世作品を正しくは理解できない。

さらに、ヨーロッパ中世の研究においては、一つの地域・言語だけを取り上げても充分ではない。学問上の共通言語としてラテン語を用いていたことや、近代的な国民国家がまだ確立されていなかったこと等から、特に百科事典のような学術的な書物は、汎ヨーロッパ的な繋がりを見せていた。また、例えば、イングランドの作品は、特にフランスからの影響が大きい。中世最大の百科事典を生みだしたのはフランスであり、ディドロやダランベール等の近代百科事典に続く基礎が、中世から近世にかけてどう形成されていったかを知るため重要な地域である。このように、特に博物誌や百科事典のような書物を当時の文脈の中に位置づけて論じるためには、ヨーロッパ全体まで視野を広げる必要がある。

それに加えて、十字軍等の東西のコンタクトにより、中世後期において、当時ヨーロッパより進んでいた中東の博物学・自然史・科学の知識が流入したことも見逃せない。ヨーロッパ中世へのイスラーム世界からの影響については、例えば R. W. Southern, *Western Views of Islam in the Middle Ages* (Harvard University Press, 1962) や Dorothee Metlitzki, *The Matter of Araby in Medieval England* (Yale University Press, 1977) といった古典的名著が存在し、従来から中世社会の重要な一面であるという認識はあった。近年では Nizar F. Hermes, *The [European] Other in Medieval Arabic Literature and Culture* (Palgrave Macmillan, 2012) により、逆に中世アラビア語文学におけるヨーロッパの表象等も研究されている。しかし、言語の壁に阻まれ、具体的な記述のレベルまでおりて、ヨーロッパと中東との繋がりを取り上げる研究は少ない。また、ヨーロッパの動物や鉱物、天体についての記述等は、アラビア科学の影響が強いが、その繋がりも充分にとりあげられているとは言えない。こうした状況を受けた、本研究の意義は、言語、時代、地域の違いを超えて、ヨーロッパ中世がどのように博物学的知識を吸収し、伝承していったかを取り上げることにある。

２．研究の目的

本研究は、博物誌・百科事典の本文を比較・分析することにより、動物・植物・鉱物等についての博物学的記述が、古代ギリシア・ローマから、イングランドを初め、フランスやドイツ等のヨーロッパ中世に、どのように受け継がれていったかを分析する。さらに、ヨーロッパ中世の博物学的知識が、どのように中世イスラーム世界からの影響を受けたか、また、どのように近世ヨーロッパへとつながっていったかをあわせて考察する。そして、それらを通し、時代や地域を限定した局地的な知のあり方ではなく、古代から中近世ヨーロッパという時代的な広がりや、ヨーロッパと中東という地域的広がりをカバーし、当時の知識のあり方を総合的に浮かび上がらせることを目的とする。

まずは、中東とヨーロッパ中近世の博物誌や百科事典の編纂方法・編纂目的を比較し相違点を整理する。百科事典において、分類と編纂の問題は著作の根幹をなす部分といえるため、研究の初めに共通基盤として確認する。続いて、具体的な記述を分析する。古代中世のヨーロッパにおいて自然物を構成するものは、動物界、植物界、鉱物界の三界であり、動くもの、成長するもの、動かざるもの、という性質の異なる三種である。具体的な記述の比較はこの界に沿って行い、最後に補足を行い、総括し、中世後期のヨーロッパの百科事典が知のネットワークにおいてどのような役割を果たしたかを明らかにする。

また、記述の直接の影響関係を立証することは目的としない。そうではなく、当時の知識のあ

り方を大局的に見た時、それぞれの記述がその流れの中でどのような役割を果たしたかに注目しつつ、各記述を比較・分析する。その一方で、既に直接の影響関係があるとされているものについては、記述の比較を通して、具体的な関係性を追求する。取り上げる作品としては、既出の古代・初期中世のものに加え、イングランドの書物としては、『動物譜』（12～13 世紀）、アレクサンダー・ネッカム『事物の本性について』（12 世紀）、バルトロマエウス・アングリクス『物性論』（13 世紀）が挙げられる。ヨーロッパの他地域からは、アルベルトゥス・マグヌス『動物について』・『鉱物について』（13 世紀）、トマ・ド・カンタンプレ『自然の事物について』（13 世紀）、ヴァンサン・ド・ボ−ヴェ『大いなる鑑』（13 世紀）、アンブロワーズ・パレ『怪物と驚異』（16 世紀）、コンラート・ゲスナー『博物誌』(16 世紀) 等を見る。特に中世最大の百科事典といわれ、多方面に大きな影響力をもつ『大いなる鑑』を重視する。

中東との関わりについては、直接的な関係の有無に拘らず、代表的な百科事典であるカズウィーニー（13 世紀）等を取り上げ、西洋と共通する記述を調査する作業と、直接関係のあるケースの比較・分析との、二種の作業を行う。後者の例には、11 世紀の中東の医学書のラテン語訳である『健康全書』、アラビア語百科事典のラテン語訳である『秘中の秘』（12 世紀）がある。

３．研究の方法

ヨーロッパ古代・中世・近世及び中世アラブ・ペルシアの百科事典や博物誌において、同じ対象の記述を具体的に比較することにより、知識の伝承と影響関係とを解明する。３名の参加研究者がそれぞれの専門に応じて、各時代と地域とを担当し、分析結果を持ち寄ることにより、比較が可能になる。初年度は共通基盤となる、百科事典の枠組みや分類等を整理・確認する。次年度以降、博物誌の基本三分類である、動物・植物・鉱物にそれぞれ着目し、具体的な記述の比較を行う。その後、基本分類には収まらないものの、中東からヨーロッパへの影響として重要な分野である、天体についての記述等、それまでカバーできなかった部分を捕捉すると共に、全体をまとめる。

研究体制としては、研究代表者大沼が、本課題の根幹となる、ヨーロッパ中世の百科事典、博物学的著作を扱う。さらに、その理解のために欠くことのできない、西洋古代の著作との関わりも担当する。二名の研究分担者のうち、山中は、ヨーロッパ中世に中東の科学が与えた影響について担当し、黒川は、ヨーロッパ中世から近世への博物誌・百科事典の発展を担当する。これにより、古代から中世へ継承された知識が、中東の影響を受け、近世へとつながっていくという、時代的及び地域的な広がりをとらえ、博物学的知識の伝承を大きな視野でとらえることができるようになる。アラブ・ペルシア文学に基盤を置いた比較文学を専門とする山中は、博物誌やヨーロッパにも関係のある伝承等を中心に既に多くの業績を残し、中東の自然史や博物学について広い知見を有している。また、西洋中近世史を専門とする黒川は、イングランドに加えフランスを主なフィールドとしているため、イングランドだけでなくフランスの近世博物誌・百科事典も扱うことができる。

このように、本研究は、中世だけ、ヨーロッパだけに留まらず対象範囲を広げ、ヨーロッパ中世の知のあり方を包括的にとらえることを目指す。こういった広がりをもった研究は類例が少なく、必要性が認識されつつも手をつけられてこなかった分野とも言えるため、革新的かつ学術的意義が高いと言える。このような広い範囲にわたる分野横断的な研究は、実質的に、共同研究をもって初めて可能になるものであり、今後の文学研究のあり方をより多様化させるものともなる。３名の参加研究者は、異なった分野に土台を置きつつも、これまでにも、学術的関心を共有し、業績を積み重ねており、共同研究の成果は、例えば『驚異の文化史』として 2015 年秋に刊行されたが、類書のないユニークかつ高度な研究書として高評価を得ている。

また、様々な言語で書かれた文献に広くあたり、緻密な本文分析に基づく学術的貢献を図ることを核としつつも、「古代」・「中世」といった、ともすれば敬遠されがちな分野が、一部の限られた研究者だけに意味のあるものではなく、社会のあり方や知のあり方を考えるという意味で、より広い対象に還元できることも、展示等を通して示す。

４．研究成果

研究初年度である 2017 年度は、古代から近世にわたる西洋、及び、中世アラブ・ペルシア世界の百科事典や博物誌の分類と枠組みとを確認し、今後の具体例検討の共通基盤とした。西洋古代及び中世を大沼、西洋近世を黒川、イスラーム中世を山中が担当し、それぞれの担当する地域と時代における代表的な資料を数例取り上げて分析した。その結果、編纂意図としては、大きく分けて、自然界を知ることと、神への理解を深めることの二つが見られること、時代や地域によってそれらの比重の変化が見られることが分かった。また、典拠の扱いや記述の方法についても同様である。分類と枠組みに関しては、個々の作品による差が予想より大きかった一方、西洋中世で辺縁的扱いだった区分が近世でも存続している等、時代を超えた意外な共通点も見られた。また、国際学会での発表や聴衆としての参加を通し、関心を同じくする海外の研究者たちに会い、情報交換を行い、その後の研究に役立てた。また、日本においてこのような研究が行われていることは意外性を持って受け止められ、印象に残すことができた。

研究二年目である 2018 年度からは、実際の記述の具体例の検討に入った。この年度は「動物」

の記述を主要テーマにし、現存する動物に限らず、幻獣や怪物等想像上の生物も検討対象に含め、近世以降、特に合理的な説明のつけられない動物の位置づけが大きく変化し、それが該当例を記載する書物の機能と連動することを確認した。同時に、前年度の百科事典の分類と枠組みに関して、新たな発見があり持ち越した部分の研究も引き続き行った。研究を進めて行く中で、新たな百科事典研究者と知り合う機会にも恵まれた。また、慶應義塾大学で行われた貴重書の展覧会にあわせて出版された図録に、前年度行った百科事典の分類や枠組みの研究成果を活かした解説を執筆し、広く一般に研究成果を還元するよう試みた。

2019 年度は「植物」について、博物誌や百科事典でのそれらの記述が、世俗の文学など、どのようにそれ以外のジャンルの作品に活かされているか、同時に、博物誌・百科事典というジャンルの中でもどのように記述が変化していくか等を調べた。その過程で、西洋中世から近代へかけての驚異の扱いの変遷につき、新たなつながりを発見できた。成果については、分析の結果、植物を中心ではなく言及に留める形でまとめたほうがより知識の継承についてはっきりさせられると考え、そのようにまとめたものや、継続調査となったものもある。また、大沼は慶應義塾大学で講演を行い、研究成果の一部を学生に伝えた。山中は、黒川の協力も得て、国立民族学博物館での展覧会を企画し、その中で百科事典に関係した展示部門も設け、広く一般に研究成果を還元した。

2020 年度の研究テーマは「鉱物」についての記述であり、資料集めや分析等は行ったが、直接的にその結果をまとめて公開するには至らなかった。しかし、2019 年度からもちこしていた、「植物」の記述についての業績を刊行することができた。また、当初予定にはなかった人間界の広がりに関する百科事典的記述を分析し、業績を刊行する機会があった。それにより、百科事典・博物誌がどのように中世人の思想形成の助けとなってきたかについて、より詳細に踏み込む事ができ、当時の知識のあり方について、より包括的にとらえることができた。

さらに 2020 年度の特徴としては、コロナ禍により、何度かオンラインでの業績公開を経験し、様々な方策を検討・実践したことにより、様々な制限のなかでの業績公開の可能性について、経験と実績を積むことができたということがある。その一環として、大沼・山中は、日本中世英語英文学会の大会において同一シンポジウムに登壇し、地域を越えた知識のつながりを開示した。これまではそれぞれが単独の論文や発表として研究成果を還元することが多かったが、ここでまとめての発表となったことにより、より研究全体としての成果が見えやすい発信となったと考える。この発展形として、黒川も参加した形のシンポジウムや論集の発行も計画した。さらに、本シンポジウムにインスピレーションを得た聴衆による新たな企画にもつながった。

2021 年度は、研究の総括として、大沼はオンラインの国際講演（主催：ユトレヒト大学中世研究センター）を行い、古代から中世にかけての驚異の記述パターンの変遷についてまとめ、高評価を得た。また、数年かけて取り組んでいた国際論文集も刊行された。さらに、大沼、山中、黒川３名全員が参加して、2020 年度に行ったシンポジウムの発展版として、オンライン公開シンポジウムを行った。この録画はウェブ上に公開されている。こういった収穫があった一方、シンポジウム内容に基づき、最終的な総括として、2021 年度中に論文集を刊行する予定だったが、年度内に刊行には至らず、2022 年度に持ち越しとなり、併せて研究計画も延長となった。

2022 年度は、プロジェクトの最終年度として、昨年度より持ち越しとなっていた、参加研究者３名全員が参加した論文集を刊行し、バランスよく時代と地域とをカバーした類例のない貴重な論集であるとの評価を受けた。ここでは３名それぞれが、百科事典、旅行記、驚異譚などをとりあげ、古代から近世にわたるヨーロッパ及びアラブ・ペルシア世界の巨人像について分析した。冊子体の他、ウェブ上にも公開している。それ以外に、個々でも論文の刊行や国際学会発表を行い、研究成果の発信及び次なる研究への発展に努めた。また、一般書や新聞などを通じ、学術界に限らない成果の還元も行った。

以上のように、特に研究後半にかけて、本研究の特徴である時代と地域とをまたいだ研究を発信することができ、国内外において、希少なものとして受け取られた。その成果は学界にとどまらず、広く一般に公開されているものもあり、広い範囲での受容や関心の喚起ができたと考える。今後の展望としては、参加研究者それぞれが、既に次のプロジェクトを始めており、素材や視点など、今回の研究から受けた知見を活かすことができるものとなっている。さらに、今後も成果を報告しあい、時代や地域を超えた視座を構築する試みを続けていく素地が、本研究により、より強固に形成された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 大沼由布	４．巻 －
２．論文標題 「Gigantesの運命 ―古代中世ヨーロッパの巨人伝承の変遷―」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『「巨人」の場(トポス) ―古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』、勝又悦子編（同志社大学一神教学際研究センター）	６．最初と最後の頁 59-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大沼由布	４．巻 －
２．論文標題 「はじめに」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『旅するナラティヴ―西洋中世をめぐる移動の諸相』、大沼由布・徳永聡子編（知泉書館）	６．最初と最後の頁 v-viii
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大沼由布	４．巻 －
２．論文標題 「体と心と言葉の旅―英仏版『マンデヴィルの旅行記』とイングランド像」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『旅するナラティヴ―西洋中世をめぐる移動の諸相』、大沼由布・徳永聡子編（知泉書館）	６．最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山中由里子	４．巻 －
２．論文標題 「巨人の名残り―遺物をめぐる中世イスラーム世界の驚異譚と巨人」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『「巨人」の場(トポス) ―古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』、勝又悦子編（同志社大学一神教学際研究センター）	６．最初と最後の頁 115-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yuriko Yamanaka	4．巻 －
2．論文標題 "How to Uproot a Mandrake: Reciprocity of Knowledge between Europe, the Middle East, and China."	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Atsushi Egawa, Marc Smith, Megumi Tanabe, Hanno Wijsman (eds.) Horizons medievaux d'Orient et d'Occident: Regards croises entre France et Japon	6．最初と最後の頁 169-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒川 正剛	4．巻 －
2．論文標題 「西洋中･近世における巨人表象とイマジネールー聖人･野人･パタゴニア人」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 『「巨人」の場(トポス）―古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』、勝又悦子編（同志社大学一神教学際研究センター）	6．最初と最後の頁 165-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒川 正剛	4．巻 25
2．論文標題 「近世フランスの百科事典における「驚異」認識についてーA・フュルティエール著『普遍辞典』(1689年）から」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 太成学院大学紀要	6．最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山中由里子	4．巻 178
2．論文標題 表象の疫学から解くアマビエ現象	5．発行年 2021年
3．雑誌名 季刊民族学	6．最初と最後の頁 72-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yu Onuma	4．巻 95
2．論文標題 “The Great Khan and the Mongols in Mandeville’s Travels: Medieval European Observation and Imagination.”	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Etudes Medievales Anglaises	6．最初と最後の頁 pp. 41-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yuriko Yamanaka	4．巻 45
2．論文標題 “Authenticating the Incredible: Comparative Study of Narrative Strategies in Arabic and Persian Ajaib Literature”	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Jerusalem Studies in Arabic and Islam	6．最初と最後の頁 303-354
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 山中由里子	4．巻 42 (1)
2．論文標題 「物質文化を『翻訳』する―国立民族学博物館における展示解説の多言語化実践現場から」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『国立民族学博物館研究報告』	6．最初と最後の頁 49-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15021/00008570	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒川正剛	4．巻 1125
2．論文標題 「表象としての魔女―図像と生成されるリアリティ」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『思想』	6．最初と最後の頁 6-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒川正剛・小林繁子・楠義彦	4．巻 20
2．論文標題 「魔女とマス・メディア―ヨーロッパ近世の他者のイメージをさぐる」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『太成学院大学紀要』	6．最初と最後の頁 225-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20689/taiseikiyou.20.0_225	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　20件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 Yu Onuma
2．発表標題 “The Role of Prester John in Mandeville’s Travels”
3．学会等名 Mandeville 700（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 山中由里子
2．発表標題 「マンドレイクの採取法―驚異圏と怪異圏をつなぐ伝承」
3．学会等名 東アジア怪異学会 第140回定例研究会／第14回オンライン研究（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Yuriko Yamanaka
2．発表標題 "Where lie the Boundaries of 'Nature'?: A Comparative Study of the Marvelous and Uncanny"
3．学会等名 Knowledge and Know-How Situated: Humanities and Social Sciences and the World（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 Yuriko Yamanaka
２．発表標題 "The Fallen Giants: 'Proto-history' of humankind in Arabic and Persian Historical Narratives"
３．学会等名 Deutsche Orientalistentag “Creation and Transmission of Persian Historical Narrative: A Comparative Study”（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yu Onuma
２．発表標題 Migration of Marvels across Genres and the Ages
３．学会等名 UCMS Lecture Series, Utrecht Centre for Medieval Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 大沼由布
２．発表標題 異形のカタログ―西洋中世の百科事典的著作における巨人の記述
３．学会等名 オンライン公開シンポジウム「巨人」の場（トポス）、同志社大学一神教学際研究センター（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuriko Yamanaka
２．発表標題 Evolution of the Alexander Romance and its Repurposing in the Islamicate World
３．学会等名 国際研究会 Alexander Romance: History and Influence on the World Literature（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 中世イスラーム的人類史観における巨人族
３．学会等名 東京大学中東地域研究センター連続セミナー「中東と遺産：文化・歴史・信仰の展開」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 巨人の名残りー遺物をめぐる中世イスラーム世界の驚異譚と巨人
３．学会等名 同志社大学一神教学際研究センター主催　公開講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 西洋中･近世における巨人表象とイマジネールー聖人･野人･パタゴニア人
３．学会等名 オンライン公開シンポジウム「巨人」の場（トポス）、同志社大学一神教学際研究センター（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 総論　怪異学とは何か
３．学会等名 東アジア怪異学会編『怪異学講義ー王権・信仰・いとなみ』講評会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yu Onuma
２．発表標題 “Earthly Paradise and Mandeville’s Travels”
３．学会等名 日本英文学会第92回全国大会シンポジウム「The Search for Paradise―The Otherworld in the Medieval European Imagination」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大沼由布
２．発表標題 「Gigantesの運命―古代中世ヨーロッパの巨人伝承の変遷」
３．学会等名 日本中世英語英文学会 第36回全国大会 企画シンポジウム「ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人族表象の変遷」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 「自然界と想像界のあわいに漂うもの」
３．学会等名 第１回人文知応援大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 「中世イスラーム世界における巨人像―ペルシア・アラビア語博物誌に見るアードの民」
３．学会等名 日本中世英語英文学会 第36回全国大会 企画シンポジウム「ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人族表象の変遷」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yuriko Yamanaka
２．発表標題 "The Museum as a Re-enchanted Forest?: Magical Thinking in Museum Space"
３．学会等名 REDIM (Dynamiken religioser Dinge im Museum) Online Colloquium（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yu Onuma
２．発表標題 「The Great Khan: Observed and Imagined」
３．学会等名 第10回日韓西洋中世史研究集会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大沼由布
２．発表標題 「西洋中世の百科事典の系譜」
３．学会等名 極東証券寄付講座「文献学の世界―書物と知の組織化」第9回（慶應義塾大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yuriko Yamanaka
２．発表標題 “Witness of Wonders: Fragmented, Recycled, and Reorganized Alexander Narrative in Mediaeval Persian Encyclopaedia.”
３．学会等名 There was one, there wasn’t one: Modalities and challenges of the narrative in the Persianate world（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 「珍獣・霊獣・幻獣・怪獣――人はなぜモンスターを想像するのか？」
３．学会等名 みんぱくゼミナール
４．発表年 2019年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 「めでたい！？めでたくない！？世界の人魚」
３．学会等名 令和元年度斎宮歴史博物館歴史講座―第2回（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 「ヨーロッパにおける驚異とnature―近世から近代へ」
３．学会等名 第37回人文機構シンポジウム「この世のキワー自然と超自然のはざま」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大沼由布
２．発表標題 「西洋中世の百科事典と自然の分類」
３．学会等名 「驚異と怪異―想像界の比較研究」共同研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 「変容する魔女表象―身体と感情をめぐって」
３．学会等名 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所　第9回シンポジウム「ルネサンス期ヨーロッパにおける魔女表象と社会の変容」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 「西洋近世のメディアにおける魔女と社会的周縁者」
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yu Onuma
２．発表標題 "Otherness as an Ideal: The Tradition of the 'Virtuous' Indians"
３．学会等名 International Medieval Congress（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 大沼由布
２．発表標題 「中世イングランドの百科事典と編纂者たち―アレクサンダー・ネッカムとバルトロマエウス・アングリクスを中心に」
３．学会等名 日本中世英語英文学会第33回全国大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 山中由里子
２．発表標題 「ヒュードロドロの系譜―この世ならざるものの出現にともなう音」
３．学会等名 第 477 回みんぱくゼミナール
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yuriko Yamanaka
２．発表標題 "How to Uproot a Mandrake: Reciprocity of Knowledge in Medieval Europe, Middle East and China"
３．学会等名 International Colloquium, CULTURAL EXCHANGE IN THE MIDDLE AGES: FROM DIALOGUE TO THE CONSTRUCTION OF CULTURES（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yuriko Yamanaka
２．発表標題 ”Incredible India, the Land of Wonders in Persian Ajaib Literature”
３．学会等名 International Conference on Indo-Persian Studies, Academy of Persian Language and Literature（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 「魔女とメディア―西洋近世キリスト教社会の他者表象」
３．学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 黒川正剛
２．発表標題 「魔女はなぜ信じられるようになったのか？」
３．学会等名 『魔女とマス・メディア―ヨーロッパ近世の他者のイメージをさぐる』
４．発表年 2017年

〔図書〕　計19件

１．著者名 大沼由布、徳永聡子（編）	４．発行年 2022年
２．出版社 知泉書館	５．総ページ数 302
３．書名 『旅するナラティヴ―西洋中世をめぐる移動の諸相』	

１．著者名 Yu Onuma, Ed. Hans-Werner Goetz and Ian Wood	４．発行年 2021年
２．出版社 Brepols	５．総ページ数 478
３．書名 "Otherness as an Ideal: The Tradition of the ‘Virtuous’ Indians," ‘Otherness’ in the Middle Ages, pp. 319-338	

１．著者名 大沼由布（東雅夫・下楠昌哉責任編集）	４．発行年 2020年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 450
３．書名 「マンティコア変奏曲―実在と幻想の狭間」、『幻想と怪奇の英文学IV ― 変幻自在編』、東雅夫・下楠昌哉責任編集、pp. 54-75	

1．著者名 黒川正剛（川田牧人・白川千尋・飯田卓編）	4．発行年 2020年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 482
3．書名 「西欧近世の魔術信仰における感覚・実践・マテリアリティ」、『現代世界の呪術』、pp．329-353	

1．著者名 山中由里子・イザベル・ドラーランツ（執筆協力）（江川温・マルク・スミス・田邉めぐみ・ハンノ・ウェイスマン編）	4．発行年 2020年
2．出版社 知泉書館	5．総ページ数 390
3．書名 「マンドレイクの採取法―ヨーロッパ・中東・中国における知識の往還」、『東西中世のさまざまな地平―フランスと日本の交差するまなざし』、pp．157-188	

1．著者名 山中由里子（鈴木薫・近藤二郎・赤堀雅幸編）	4．発行年 2020年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 826
3．書名 「驚異譚（アジャーイブ）と想像界」、『中東・オリエント文化事典』、pp．416-417	

1．著者名 大沼由布（山中由里子・山田仁史編）	4．発行年 2019年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 368
3．書名 「百科事典と自然の分類―西洋中世を中心に」、『この世のキワ―〈自然〉の内と外』	

1．著者名 大沼由布（安形麻理編）	4．発行年 2020年
2．出版社 慶應義塾大学	5．総ページ数 107
3．書名 「西洋中世の百科事典の系譜」、『令和元年度極東証券寄付講座文献学の世界－書物と知の組織化』、pp. 63-74	

1．著者名 山中由里子（山中由里子・山田仁史編）	4．発行年 2019年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 368
3．書名 「自然界と想像界のあわいにある驚異と怪異」、『この世のキワ―〈自然〉の内と外』、pp．4‐16	

1．著者名 山中由里子編・国立民族学博物館監修	4．発行年 2019年
2．出版社 河出書房新社	5．総ページ数 239
3．書名 『驚異と怪異―想像界の生きものたち』	

1．著者名 黒川正剛（川田牧人･白川千尋･関一敏編）	4．発行年 2019年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 292
3．書名 「西欧近世における「呪者の肖像」－高等魔術師と魔女」、『呪者の肖像』、pp．79‐98	

1．著者名 黒川正剛（山中由里子・山田仁史編）	4．発行年 2019年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 368
3．書名 「魔女の身体、怪物の身体」、『この世のキワ―〈自然〉の内と外』、pp．88‐200	

1．著者名 大沼由布（安形麻理監修）	4．発行年 2018年
2．出版社 慶應義塾図書館	5．総ページ数 107
3．書名 「27．ヴァンサン・ド・ボーヴェ『自然の鑑』」、「28．ヴァンサン・ド・ボーヴェ『諸学の鑑』」、「29．ヴァンサン・ド・ボーヴェ『歴史の鑑』」、「30．バルトロマエウス・アングリクス『事物の属性について』」、『インキュナブラの時代―慶應義塾の西洋初期印刷本コレクションとその広がり（第30回慶應義塾図書館貴重書展示会）』、pp．41-46	

1．著者名 Yuriko Yamanaka (ed. by Regina F. Bendix, D. Noyes)	4．発行年 2018年
2．出版社 Verlag fuer Orientkunde	5．総ページ数 315
3．書名 “The Tear-bottle Quest: European Perception of the Biblical Orient and Iranian Shiite Ritual.” Terra Ridens, pp. 152-172	

1．著者名 黒川正剛	4．発行年 2018年
2．出版社 筑摩書房	5．総ページ数 249
3．書名 『魔女・怪物・天変地異　―近代的精神はどこから生まれたか』	

１．著者名 黒川正剛（川田牧人・白川千尋・関一敏編）	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 292
３．書名 「西欧近世における「呪者の肖像」―高等魔術師と魔女」、『呪者の肖像』、pp．79-98	

１．著者名 山中由里子（西山克編）	４．発行年 2018年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 260
３．書名 「イスラームにおける地獄」、『地獄への招待』、pp．87-106	

１．著者名 黒川正剛（西山克編）	４．発行年 2018年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 260
３．書名 「キリスト教の地獄観」、『地獄への招待』、pp．7-23	

１．著者名 黒川正剛(翻訳）（池上俊一監修）	４．発行年 2018年
２．出版社 名古屋大学出版会	５．総ページ数 650
３．書名 アンブロワーズ・パレ『怪物と驚異について』、『原典ルネサンス自然学（上）』、pp．329-416	

〔産業財産権〕

〔その他〕

公開シンポジウム（オンライン）　「巨人」の場(トポス)録画
http://www.cismor.jp/jp/lectures/%E3%80%8C%E5%B7%A8%E4%BA%BA%E3%80%8D%E3%81%AE%E5%A0%B4%E3%83%88%E3%83%9D%E3%82%B9/

「巨人」の場(トポス)proceedings
http://www.cismor.jp/jp/publication/%E5%B7%A8%E4%BA%BA%E3%81%AE%E3%80%8C%E5%A0%B4%EF%BC%88%E3%83%88%E3%83%9D%E3%82%B9%EF%BC%89%E3%80%8D/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山中　由里子 (Yamanaka Yuriko) (20251390)	国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授 (64401)	
研究分担者	黒川　正剛 (Kurokawa Masatake) (30342231)	太成学院大学・人間学部・教授 (34432)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	ユトレヒト大学			
米国	ノースカロライナ大学チャペルヒル校			
英国	ロンドン大学			
フランス	フランス国立古文書学校	IRHT		